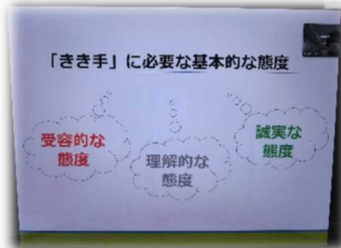


令和3年度 家庭教育オピニオンリーダー研修④ 実施報告

実施日：令和3年10月6日（水）

※新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、前回に引き続き Zoom を使って研修を行いました。

「家庭教育オピニオンリーダー」として家庭教育支援の活動に携わる際には、子育ての悩みについて相談を受けるなど、保護者と接する機会が増えます。そこで今回の研修では、講話と演習をとおして、カウンセリングマインドを生かした相談の在り方や、カウンセリングの基礎について学びました。



○ 講話「カウンセリングマインドを生かした相談の在り方」

栃木県総合教育センター教育相談部 指導主事 澁谷 景子

講話では、初めに子どもの発達段階に関する説明がありました。子どもが迎える各発達段階の特徴と、各年代において獲得したり、乗り越えたりしていく必要のある発達課題について確認しました。

続いて、『カウンセリングマインド』や、これを生かした相談の方法について詳しい説明がありました。ここではまず、『きき手と話し手の間に温かい信頼に満ちた人間関係をつくろうとする姿勢・態度・心構え』をカウンセリングマインドと呼ぶことが示されました。また、これに基づく「きき方」（傾聴）や質問の仕方を実践することで、相談者との信頼関係を築き、相談を充実させられることも示されました。そして、相談者のありのままを受け止めることや、相談者の話を理解しようと努めることなどの、「きき手」に求められる心構えや、相づちを打つこと、相談者が沈黙してしまっても温かく見守ることなど、具体的な話の「きき方」について学びました。

○ 演習「カウンセリングの基礎」

栃木県総合教育センター教育相談部
同

指導主事
指導主事

澁谷 景子
岩崎 実香

演習は、講話で示された「話をきくときに必要な態度」を実践することを目的として、受講者同士がペアを組んで行われました。大きく3つの演習が行われ、これらをとおして

- ①きき手も話し手も、自分の関心・視点で話したりきいたりしていること
- ②相手をわかろうとする姿勢の大切さ
- ③話の内容とは別に、きき手と話し手の関係の中で起こる感情があることを、きき手と話し手の両方の立場で実体験しました。

今回は受講者全員がオンラインで参加していたため、ペアのみで話す際には Zoom の「ブレイクアウトルーム」機能を使用しました。特に③の演習の際などは、画面越しの活動で実施に少し難しい点もありましたが、受講者は真摯に取り組み、相手の話に丁寧に耳を傾け、相手を理解しようとするこの大切さについて認識を深めていました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・ カウンセリングマインドを構成する3つの基本的態度を意識して、傾聴できるよう努力したいと思います。
- ・ 女性は話をするのが得意ですが、聞くのが苦手な方も多いと思います。また、時間内に話すのも苦手なように感じています。その中で、今回の研修は非常に気づきが多かったように感じます。フィードバックしたことで気づきが生まれ、喜んでくださったパートナーだったので安心していきます。
- ・ 一番はじめにお話いただいたエリクソンの発達段階がとても勉強になりました。こういった発達段階の特徴を理解していることで、余裕をもって相談事をきくことができると感じました。
- ・ 振り返りでは皆さん自分の感情を客観視する難しさをあげていました。意識してやったことがなかったので、今後を生かしたいと思います。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL: 028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp